

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200981		
法人名	幼老育成会		
事業所名	グループホーム サクラ白木		
所在地	長崎県佐世保市白木町22番地		
自己評価作成日	平成26年6月10日	評価結果市町村受理日	平成26年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成26年7月28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業開始して、まだ1年たっていないですが、当ホームの理念『まごころ』のもとに、スタッフ一同、本当の家族のように愛情を込めて、明るく楽しい分に雰囲気の中、ご利用者様のお手伝いをさせてもらっております。  
地域の行事に参加できる範囲で参加させて頂いております。また、隣接の小規模多機能ホーム、認知症デイサービスと共にサクラ白木として合同で行事をし、交流を図っております。  
『自分の親を入居させてもいいなあ』と施設作りを目指しております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは佐世保市街地を見渡す小高い丘の閑静な住宅街の中に建っている。日当たりが良く、利用者が庭で野菜作りを楽しむなど、ゆったりとした日常を過ごしている。事業所は理念「まごころ」と共に「笑顔」と「本当の家族のように利用者と共に寄り添う介護支援」をキーワードに日々の支援に取り組んでいる。また、法人内の他施設とも連携し、より質の高いサービスの提供を目指し、医療面や研修内容の充実を図り、日々の業務に活かしている。職員は一人ひとりの利用者と共に必ず目を見て会話するよう心がけている。その中から生まれる信頼関係は、会話の多さや個人記録から確認できる。開設から1年未満であるが、管理者はじめ職員のチームワークの良さが、利用者の明るさに繋がり、ホーム全体が元気で笑顔に溢れている。これからは楽しみなホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの際職員全員で施設理念と心得の唱和をしている。今後は、会議等で定期的に理念をあげ見直していく必要もあるかと考えている。	開設時に作った理念「まごころ」と理念を具現化した心得を職員は毎朝唱和している。職員は認知症についてしっかりと理解することから始め、理念に沿って利用者一人ひとりと会話し、コミュニケーションを取りながら、笑顔で愛情こめた支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等外出した際、近所の方と会話をしたり、挨拶等をしています。また、地域行事に出来る限り、ご利用者様と共に参加している。	自治会に加入しており、区長や婦人部より地域情報を得て、利用者との外出など支援に活かしている。また、職員が地域行事に協力するなど、職員も地域の一員として取り組んでいる。高校生の職場体験の受入れや、近所の方が犬の散歩で立ち寄るなど、日常的な交流が日ごとに増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	去年末行われた町内の餅つきに入居者様数名と職員で参加し、楽しく餅つきをされた。その時に、簡単な事業所の説明を行いました。その際に、地域の高齢者の方の相談に乗る関係を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設当初より、二月に1回、小規模多機能ホームサクラ白木と合同で運営推進会議を開催し、利用者様やその家族様、地域の方、他職種との連携を図りながらサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、規程のメンバーで開催している。事業所や利用者の現状や行事報告等を行い、参加者から意見をj得ている。ホーム行事について提案があり、実践するなど意見を運営に活かしている。但し、議事録に質疑応答などの内容の記載や参加者の氏名の明記がない。	有意義な運営推進会議を活かすために、議事録の内容を充実させることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、運営の報告をし、また分らないことに関しては、市に連絡し対応している。	利用者に関わる手続きにおいて各課と連携しており、疑問や相談など行っている。地域包括支援センターとも入居状況など連絡を取り合い、協力関係を築くよう努めている。行政からは研修情報の提供があり、職員が研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催する予定。日中玄関などを開放しており、常日頃から目配り気配り等行い入居者様の様子観察をしている。	身体拘束をしないケア実践に向け、法人内で研修を実施している。具体的な例をあげ、身体及び言葉による制止や声かけ方法について学んでいる。玄関など日中は施錠せず、職員は利用者を見守り、声かけを行いながら自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催する予定です。ご利用者様に親しみをもちすぎで、言葉遣いがタメ口になる場合もある為、スタッフ間でその都度声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状として不十分である。勉強会を実施していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に伝えている。取り決めに関しては利用者様と家族様と話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様と話し、意見を聞き御家族様が面会に来られた際、相談したりしている。	苦情や要望に関する内容は重要事項説明書に明記しており、契約時に説明している。職員は家族が訪問した際に話しやすい雰囲気になるよう努めている。要望や意見はノートや伝達帳に記入し、職員間で共有している。健康管理方法など家族の意見を参考に取組んだ事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い職員の意見を聞き働きやすい環境作りに努めている。また、意見箱を設置し常日頃から対応できる様に心掛けている。	毎月のミーティングでは事前に議題を伝え、全員から意見を汲み上げるよう工夫している。管理者は日々の申し送りや伝達帳を利用し、職員の声を聞き取っている。職員の要望から研修内容を決めたり、希望のシフトを調整している。また、畑作業の道具など備品を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績・勤務状況を把握しているが、向上心に関しては個々の努力に任せている部分がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が多い月には、短期間ではあるが研修に行かせる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回下にある小規模、デイサービスと勉強会を行っている。また、地域包括ケア会議にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様からお伺いする事が多いが、入所前の御家族様の施設見学も含め、御本人様の意見も確認するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時の聞き取り、相談、要望等時間をとって頂き聴取している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの利用者様にあったサービスをスタッフ、御本人様、御家族様と相談しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする中で、食事(調理面など)を教えて頂いたり、手伝ってもらったり、洗濯などの家事も共に行っている。また、昔の思い出話をする等社会的関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会時には、ご本人様の近況報告、必要に応じては電話での対応をしています。御家族様、御本人様の近況を把握した上で状況に応じた関係調整に努めている。また、行事などにも参加してもらうようお願いし参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他施設から来られた場合は、その事業所の行事などに御連れしたり、また買い物の希望がある利用者様、なかなか外出されない利用者様に対して、職員付き添いにて大型スーパーなどにお連れするなどの対応をしている。	家族や知人の訪問は自由であり、家族の協力で法事参加や外出・外泊している利用者もいる。また、利用者によっては馴染みの美容師の送迎でヘアセットに外出したり、携帯電話で家族と会話している。職員は利用者との会話中から馴染み等を汲み上げ、実現に向け検討し対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	聴覚障害(難聴)者の方に対しては、職員が間に入り意思の疎通を図るなど対応している。また、やや孤立がみられる利用者様にも、利用者様がみな共通する話題を考え会話、コミュニケーションを図る対応が出来るようつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他の介護施設などへの移動後も面会に行ったり、家族への支援を出来る範囲で行うように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様から、要望を言いやすい雰囲気をつくり、また、御家族様が面会に来られた際は、帰り際に要望がないか、御声掛けするようにしている。	職員は利用者との会話を重視している。利用者の思いを汲み上げるために話題を検討したり、耳元で話すなど工夫している。特に夕方など1対1で話す場面で時間を取り、思いを聞いている。得た情報は伝達帳や個人記録に記載し情報を共有している。但し、フェイスシートに活かされていない。	職員が汲み上げた情報を最大限に活用し、利用者の思いに沿ったケアに繋げるためにも、フェイスシートの充実が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活での本人との会話や家族からの情報、他の介護支援機関からの情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回面談の中で、得た情報に基づいて、スタッフに伝達し、その後は、暮らしの中での本人様との会話や身体介助など日常生活の中での現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様ごとに担当者を決めてアセスメントを共に行い、より良く暮らすための課題とケアのあり方を本人様、家族様の意向、意見に反映し現状に即した介護計画を作成している。	家族、利用者と面談後、初回介護計画を作成し、3ヶ月毎にモニタリング・評価を行っている。職員は介護目標に沿った支援実施に向け、記録し次の計画に反映している。担当者会議には、家族及び担当医師が参加し、介護計画を作成し本人・家族に同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のカルテや日誌の他に職員間の伝達帳に記入して全員で情報の共有を図ったり、食事の摂取表、排泄チェック表などにより職員間で状態の変化などの早期発見し対応しています。履行表を作成し実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに無いものや新たな発見に関しては本人様にプラスとなる事はどんどん取り組んでいきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の集会に参加したり、運営推進会議を通して地域の方と顔見知りになったり、互いに協力し合える事はないか模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、家族様本人様の希望にそって対応します。急な受診以外は、御家族様対応でお願いしています。系列花ぞ野診療所を希望される方に関しては、訪問診療という形をとっている。	かかりつけ医受診は、家族や本人の希望に沿って対応しており、継続受診の場合は家族が受診介助している。受診内容は電話や訪問時に家族へ報告し、職員は申し送りや記録を基に情報を共有している。事業所には協力医の往診があり、利用者毎の緊急時の対応を確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活に目を配り、個人の変化を捉えた場合は、即上司に報告し、医療連携のNSに相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が主となって、医療連携室や主治医と連携をとって対応してきました。スタッフにも経験を積ませる上で、適宜教えていこうかと考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	末期がんの方もおられ、定期的検査をして頂いている。御家族様や主治医には当ホームで出来る範囲のことを伝えている。(老衰による看取りは考えているが、NSが常駐していないので常時の医療行為が必要になってきた場合対応が難しい)	重度化や看取りの指針があり、契約時に家族へ説明し同意を得ている。開設より日が浅く、現在まで事例はない。常時、医療行為が必要な場合を除き、自然な老衰による看取りには、前向きである。職員もホームの指針を把握し、勉強会などで意識統一している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応のフローチャートをスタッフに見える位置においているが、周知徹底が完璧ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を行い、毎日夜勤者に消火訓練をおこなっている。	年2回の避難訓練を計画し、2回目の9月には消防署立会いを予定している。新人も含め消火訓練を行っている。夜間想定避難訓練や近隣住民の協力呼びかけも、今後の課題である。緊急時の重要書類等の持ち出しリストが未整備である。	災害時に職員が利用者の安全を確保する為に定期的な避難訓練、近隣住民などの地域連携、持ち出しリストの整備が望まれる。また、非常用の備蓄品等の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様各々の生活歴を把握し、それを踏まえた対応を行っている。	利用者のプライドを傷つけないようトイレ誘導や失禁時には、耳元でさりげなく声掛けを行っている。利用者の写真掲載は家族から同意を得ている。ただし、夜間使用のポータブルトイレが日中も居室に置いてあり、パッド類も目に入る場所にある。	利用者の羞恥心や尊厳を損ねないために、日中未使用のポータブルトイレやパッド類の保管場所について検討を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険なことでない限りできるだけ、利用者様の意見を尊重し支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のメニューや行事など利用者様と話し決めていきます。決めた行事以外で、その日の思いつき大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に保てるように洗濯をし、利用者様自身に服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けなど利用者様と共に行っています。また、食べたい物のアンケートなどを行い好みの食事ができるように心掛けている。	利用者の嗜好や希望を取り入れた献立を作成し、調理している。冷蔵庫に利用者の嗜好、アレルギーなど注意事項を掲示し、代替え品対応ができるように工夫している。調理準備や片づけに参加する利用者もいる。外食や弁当持参の花見や季節行事の食事を企画し、みんなで食事を楽しむよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事の摂取量を確認しています。飲水量は、必要時の応じて測定しています。個人個人の好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛け誘導等行い義歯の消毒洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、個々のパターンに合わせて声掛け誘導を行っている。夜間も必要な方は、居室にP/wcを置いてなるべくオムツを使用しないようにしている。	排泄チェック表を作成し、利用者の排泄時の状況を職員は把握している。日中はトイレでの座位排泄を支援しており、職員3人で介助をすることもある。職員は介助時に利用者の排泄状況を確認し、事例検討を行い、布パンツのみに改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には水分を多めに摂ってもらったり、ヨーグルトなどを提供しています。また、自力で排便が困難な方にはkot-2、-3で一人ひとりにあつた下剤を利用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	曜日、時間はなるべく希望に合わせてるようにしていますが、やもえない場合は事情を説明し了承を得た上で入浴しています。また、体調や希望によりシャワー浴や足浴にて対応している。	基本週2回の入浴としているが、シャワー浴や入浴日以外も随時対応している。入浴拒否の場合、強制せず入浴方法を検討したり、拒否の理由を探ることで入浴を促している。好みのシャンプー剤等準備したり、入浴介助時に会話を楽しんだりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や習慣に合わせて自由にフロアや居室で休息できるように支援をしています。また、居室の室温や寝具の調整をし安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬については把握できてないこともあるので、薬の目的等記載した表を作るなど改善していきます。服薬の容量などが変わった場合は、その後の体調の変化など観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前の準備や食後の食器拭き、洗濯物干し、たたみ、掃除など一人ひとりの力に合った役割を担ってもらっています。楽しみごととしては、各月季節に合った行事を行っています。体操や運動、トークなどで張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天の日などに、希望や声掛けにより、散歩に出かけています。また、花見やドライブ、外食など実施し、時には御家族様の方々も参加されている。	天候や体調に応じ、個別に周辺の散歩やドライブしたり、知人や家族に会うための外出を支援している。また、毎月ドライブを企画し、全員で季節毎の花見や景色を楽しみに遠出している。家族へも連絡し現地と一緒に外出を楽しんでおり、今年度はバーベキューへの参加もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ている御利用者様には、御家族様に同意を得て、お金の管理をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御入居様が用があられたり不安がられたりした際にいつでも連絡が出来るように声掛け支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事には、季節飾りをして楽しんでいただいています。季節の花を飾り季節を感じていただいている。	日当たりの良いリビングは、カーテンで光を調節し室温も適切で臭気もない。掃除も行き届き、利用者はゆったりとしたソファや好みの場所で寛いでいる。調理の匂いが家庭的であり、季節ごとの手作りの壁飾りで季節感を取り入れており、居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファを配置し誰でも気軽に会話が出来る空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御入居様との会話の中で必要な物を聞き取り、御家族様に相談の上、持ってきてもらっている。	持ち込みに制限はなく、テレビ、冷蔵庫、机など好みの物品を配置し、居室に個性がある。掃除は利用者と職員と一緒にモップを掛けたり、清潔を保持している。職員は利用者がゆっくり居室で寛げる居心地よい環境になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室を覚えにくい方に関しては、利用者様の居室がわかる様にドアに名前を表示し、分りやすく生活を送れるように支援している。		